

連載：研究者になる！－第11回－

経営管理研究部・教授 アスリ チョルパン
(Asli Colpan)

●勉強が好きだったから来日の機会に繋がった

「勉強をなさい！」。親御さんにそう注意された経験のある方は多いのではないのでしょうか。私の場合はその真逆で、子どもの頃は家に帰って宿題をするのが一番の楽しみ。時には「何時まで勉強しているの！」と怒られるような、珍しいタイプの間人でした。中でも得意だった科目は、数学、化学、物理学です。ロジカルに考えれば答えを導き出せるところに面白く没頭しました。

その志向は成長しても変わらず、大学では繊維工学を選びました。工学の中でもなぜ繊維？と聞かれると、当時は人気分野でしたし、また今から考えると恥ずかしいのですが、好きだった子の希望進路だった、というのが理由の一つでした（笑）。きっかけは不真面目でしたが、入学してからは真面目に勉強を頑張りました。そのおかげで、成績優秀者だけが選ばれる、日本の繊維工学関連企業へのインターンメンバーになることができました。

実は、これが私にとって最初の海外体験でした。一定期間過ごしてみると、電車は時間通りに来るし、やるならやる、やらないならやらないとはっきりしている。ある意味完璧なシステムが出来上がっている社会で、完璧を求める私の性格によく合っていると思いました。その後、一度はインターン先の企業に就職することを希望したのですが、働くなら日本語ができないとダメと言われ……。まだ勉強したい気持ちもあったので、奨学金を申請して学校に通い、もう一度日本に帰ってくることを決意しました。そしてリーズ大学の修士課程、京都工芸繊維大学の博士課程に進むことを決めました。

●自分で掴んだ経営学の道。常に論文の先を見据えて

経営学を勉強し始めたのはリーズ大学にいた頃です。私がいた工学のクラスは学生数が少なく、そのうえ授業内容はすでに知っていることが多かったので、若干物足りなさを感じていました。そんな中、もっと新しいことを学びたいと思っていた矢先に、経営学と出会いました。経営学のクラスは学生の数も多く、みんなが競い合って勉強していた環境も肌に合って、途中からはすっかり経営学の虜になりました。どちらの大学も奨学金は工学で申請していたのですが、リーズ大学の時は熱意で

認めてもらい、京都工芸繊維大学の時は、学内に経営学の研究科がなかったので、工学研究科に所属しながら京都大学の特別研究員になる。という形にたどり着きました。

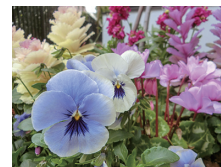
現在、研究しているテーマは、「多角化したビジネス・グループの持続性：理論的および実証的考察」。簡単にいうと、企業戦略と企業統治です。多角化するビジネス・グループ—例えば自動車を造ると同時に、ファイナンスや化粧品の分野も手がけている企業が、どういう成長の仕方をしたのか。なぜそれほどまでに多角化したのか。ということ、企業史から考察したり、企業統治のあり方がその会社の業績とどう結びついているのかなどを、計量経済学的手法を用いて分析したりしています。

経営学というのは、企業活動全般を研究する学問です。その性質的に論文を出して終わりというわけにはいかず、企業に行って発表したり、社外役員として結果を出したりするなど、何らかの形で企業に影響を及ぼすところまでが一連のプロセスなのだと考えています。また、私は海外のビジネス・グループを中心に研究しているので、国際的なトップ雑誌などで成果を発表することも、常に心がけている姿勢の一つです。出版した書籍がハーバードビジネススクールから認められて2016年から1年間、客員教授として迎え入れられたことは、とても嬉しかったです。

社会の問題なのか、女性の考え方によるものかはわかりませんが、日本は女性研究者が少ないと感じています。私自身が今そうなのですが、働きながら子育てをするというのは確かに大変です。しかし、高等教育で女性が自分の役割を持つこともまた、大切なことだと思います。

編集後記

長いGWもあっという間に終了しました。花粉症の方は、やっとマスクがとれる…とホッとした気持ちでしょうか。季節の花たちが満開になり、センターの庭もどんどん明るくなってきました。是非、お立ち寄りください。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
電話 075 (753) 2437
FAX 075 (753) 2436
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/